

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 1 —

重点項目	学習活動	
重点課題	・相互授業参観や研究授業の実施、研修・研究に積極的に取り組み、教員の教科指導力や授業力の向上に努める。	
現 状	・経験豊富なベテラン教員から若手教員まで年齢構成に幅がある現状を踏まえ、新学習指導要領の導入も視野に入れ、ICT機器等を効果的に授業に取り組みなど、コロナ禍における変化に対応できる教科指導法を研修する必要がある。	
達成目標	・公開授業やICTを活用した授業の年間実施回数…一人2回以上 ・他の教員の授業を参観したり、自分の授業を参観してもらったりした上で、相互評価・意見交換したことで参考になったと思える回数…2回以上	
方 策	・タブレット端末が生徒及び教員に一人一台配給されたことを踏まえ、ICT機器等を効果的に授業に取り組み、更に教員相互の授業参観や公開授業を積極的に行い、教科指導力や授業の質を高め、授業の工夫改善を図る。	
達 成 度	・公開授業やICTを活用した授業の年間実施回数は156.0回/一人で、昨年の3.3倍で、ほとんどがICTを活用した授業であった。また、毎回の授業でICTを活用している教員が昨年より増えたので平均回数が飛躍的に上がった。授業の相互評価や意見交換したことで参考になったと思える回数は5.0回/一人で昨年の1.6倍で目標を達成した。	
具体的な 取組状況	・オンライン授業や双方型の授業の実施はあまり無かったが、google classroom等を利用し、課題等の提出やアンケートの集計、生徒の意見を集約し共有・分析したり、自然災害における休校等の緊急の連絡を行った。また、毎授業で各生徒のタブレット端末を用いて教室のスクリーンに映し出し、グループ発表会を実施したり、スクリーンを利用したパワーポイントでのプレゼン、ネットを利用した情報検索、デジタル教科書を活用し、図やグラフを視覚的に見せるなどの取り組み等を行った。	
評 価	A	・本年度は昨年に続き新型コロナであったが、コロナによる休校はほとんど無かったが、普段の授業においてICTを活用し、授業の工夫改善をする教員が昨年度より飛躍的に増えた。
次年度へ 向けての 課題	・普段の授業で、教科指導力を高めるために、授業の工夫改善を図る一つの手段としてICTの活用をもっと増やしたい。 ・教室のプロジェクターが熱に弱く、急に投影しているものが写らなくなることが頻繁に起り、授業に支障をきたした事があったので対策が必要である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 2 —

重点項目	学習活動（自然科学コース指導）	
重点課題	自然科学コースの指導では校外研修や課題研究に主体的に取り組ませ、自然科学への関心や探究心をさらに高める。	
現 状	研修や実習のメニューは充実してきているが、学習への主体的な取り組みには大きな個人差がある。	
達成目標	校外研修や課題研究が学習や進路希望等に活かされたと思う生徒の割合 80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学コースの専門科目や行事（筑波研修、課題研究の中間講評会、自然科学コース発表会など）の内容充実を図る。 校内の自然科学コース担当外の先生方にコース行事に参加してもらう。 高校と大学との連携を強化する。 	
達 成 度	出前講義（2年・3年）……………98%（大変有意義65%、有意義33%） 生徒実習（1年）……………100%（大変有意義88%、有意義12%） 筑波研修（2年）……………100%（大変有意義87%、有意義13%） サテライトキャンパス（1年）……………100%（大変有意義67%、有意義33%） 課題研究中間講評会（2年・3年）…100%（大変有意義71%、有意義29%） 科学技術体験講座（1年）……………100%（大変有意義86%、有意義14%）	
具体的な 取組状況	過去二年間実施出来ていなかった筑波研修について、今年度は筑波大学やつくば研究学園都市の研究機関に協力を戴き、予定通り実施する事が出来た。参加した生徒達にとっては、この研修は貴重な学びの体験となり、その熱意が課題研究への意欲的な取り組みに生かされていた。その他、厳しい環境の中でも富山県総合教育センター・富山大学・富山県立大学に協力して戴き、生徒による理科実習・出前講座・サテライトキャンパス・課題研究中間講評会・科学技術体験講座と、年度当初に計画した行事を実施することができた。これらの行事を通して、本校と各大学との連携については一定の成果を得たと考えている。各行事についてのアンケートの結果についても良好であり、生徒達にとって今後の学習意欲や進路意識の形成に繋がる取り組みが出来たと考えている。その一方で、目標に掲げた校内の自然科学コース担当外の先生方にコース行事に参加してもらう事については、不十分な結果となり、引き続き次年度以降への課題として残った。	
評 価	B	感染症に対する影響が継続し、昨年度までは各行事が中止や延期されて来た中で、今年度当初に計画していた行事を予定通り実施する事が出来たのはとても良かった。その一方、自然科学コースの行事に関わる校内の広がりที่ไม่十分であった事は大きな課題として残った。
次年度へ 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> 今まで以上に、自然科学コースの活動内容を積極的に発信する。 各行事の内容を検証して、より効果的な研修になるように努める。 各行事に多くの先生方に参加してもらうための取り組みを続ける。 自然科学コースの生徒の進路実現のための体制（個別指導等）を強化する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 3 —

重点項目	学校生活（保健指導）	
重点課題	質の良い睡眠を確保し、バランスの取れた食事を摂って、心身の抵抗力を高め、健康な学校生活を送ることができる生徒の育成	
現 状	<p>①自分のからだの健康な状態のリズムを自覚し、それを維持する生活に主体的に取り組むことができる生徒</p> <p>②調子が悪くなったとき、その原因を考えることができる生徒</p> <p>これら①②を達成するための知識理解と意思決定・行動選択ができる生徒が本校の目指す生徒像である。</p> <p>全校生徒の中で、「体調がよい」は約34%、「体調はふつう」は58%であった。（令和3年度10月実施アンケートより）「体調がよい」と自覚する生徒は、4割弱で、まだ少ないのが現状である。新型コロナウイルスなど感染症対策としても心身の抵抗力を高めることが重要である。抵抗力を高め、体調良く過ごすには、質の良い睡眠とバランスの取れた食生活を維持することが求められる。</p>	
達成目標	「6時間以上の質の良い睡眠を確保」「バランスの取れた食生活の維持」ができていると回答する生徒がともに80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒に健康生活に関するアンケートを実施（5月、10月の年2回）し、実態を把握するとともに、各自が生活を振り返る。 ・日常のさまざまな教育活動のなか、「保健だより」「相談室だより」などを通して、「健康」についての意識の向上を図る。 ・学校保健委員会で、アンケート結果をもとに、学校側、保護者の立場から問題点を明確にし、健康な生活の実現のため、意見交換を行う。 	
達 成 度	<p>「バランスの取れた食生活」については、7月と1月のアンケート両方で、朝食は90%以上、バランスの取れた夕食は80%以上の生徒が摂っていた。</p> <p>「6時間以上の質の良い睡眠」については、平日の平均睡眠時間5～6時間が約70%で、「起床時に疲れがとれて爽やかだ」が約10%であった。</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日常さまざまな活動を通して、「健康」についての意識の向上に取り組んだ。 ・定期的に「保健だより」「相談室だより」「学年通信」を配布し、健康に関する知識理解を深め、自分の健康を自主管理できる生徒の育成に努めた。 ・7月（全校）と1月（1学年のみ）、健康生活に関するアンケートを実施した。各自で自分の生活を振り返った。 ・10月の学校保健委員会では、アンケート結果をもとに、教員、保護者、学校医、学校薬剤師が意見交換を行った。睡眠に効果的な食品や食事の摂り方、アンケート結果の分析、今後の取り組み方法などについて具体的な助言があった。 ・専門家を講師に招聘して、10月に健康に関する講演会、12月に食生活に関する講演会を実施した。生徒自身が、健康について再認識するとともに、心身ともに生き生きと充実した高校生活を送るためのポイントを学んだ。 	
評 価	B	<p>「食生活」については、概ね目標を達成している。</p> <p>「睡眠」については、時間・質ともに改善が必要である。</p>
次年度へ向けての課題	<p>バランスの取れた食生活を維持するとともに、起床時に疲れがとれていると感じることができる睡眠を確保することが必要である。生徒自身が自己管理能力を高めて充実した学校生活を過ごせるよう、様々な機会を通じて意識付けを行う。</p>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	生徒の規範意識を高め、自主・自律の向上を図る。 ～「交通安全」「スマートフォンの使い方」に関する生徒の主体的な取り組み～	
現 状	昨年度までのアンケート結果から年々規範意識は高まっているが、さらに交通ルールの遵守やマナーの向上を促し、事故を減少させる必要がある。また、スマートフォンの利用時間が2時間を超える生徒の割合が3割弱あり、健康面・学習面への影響が懸念される。	
達成目標	主体的に課題を解決し、適切に判断し行動できる生徒の育成 ・自転車事故の減少（0を目標に） ・スマートフォンの利用時間2時間未満80%以上	
方 策	・生徒会（執行部・自律委員会）活動を支援しながら、生徒一人ひとりが主体的に自覚と責任をもった行動が実践できるよう指導を行う。 ・さわやか運動、校門指導、交通安全指導などを通して、規範意識やマナーの向上を図る。また、各学年・各部活動とも協力しながら、さまざまな教育活動を通して支援・指導を行う。	
達 成 度	主体的に課題を解決し、適切に判断し行動できる生徒の育成 ・自転車事故 7件発生（8件(R3)←8件（R2）←16件(R元)） ・スマートフォンの利用時間2時間未満80.6% 1時間未満60.2%	
具体的な取組状況	○交通安全・通学時のマナーについて ・富山中央警察署交通課講師による交通安全教室 ・生徒指導部による街頭指導（月2回程度：東富山駅～学校間） ・新ヒヤリマップの周知徹底・実践 ・終業式・学年会等の集会において交通安全・通学時マナーの呼びかけ ○生徒自律委員会の取組みについて ・交通安全指導（さわやか運動、通学路安全確保のゴミ拾い含む） ・駐輪指導 ・スマートフォンの利用について：自律委員会が中心となり、統一HRのまとめを校内に掲示し、生徒の相互共有を図り、マナーの向上にも努める。	
評 価	B	自転車事故（軽傷で済んでいるが）の発生場所と原因 ・交差点や脇道から出たところでの接触事故件数が、7件中6件（確認不足） ・自損事故も1件発生（注意緩慢・危険運転（車道凍結）） ・自転車同士（相手の脇見・二人乗り運転） スマートフォンについて ・2時間未満は80%以上を調査開始以来初めて達成した。1時間未満も60%おり、使用時間は減少傾向と言える。
次年度へ向けての課題	・基本的な生活習慣の確立を促し、あらゆる教育活動の場を通して、主体的に社会的マナーや人間性を向上させる態度を養う。（本年度の重点課題は継続する。） ・生徒自律委員会のさらなる活性化を支援し、自主・自律の向上を図らせる。 ・「いじめ防止」や「防災教育」、「主権者教育」も継続する。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	進路支援
重点課題	進路目標を達成するため、日々の学習時間を十分に確保させる。また、進路意識を高めさせ、目標実現に必要な努力を続ける姿勢を育てる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の適性、能力に対する認識が曖昧であり、適切な進路選択を主体的に行うことができない生徒がいる。 ・時間管理が不十分で学習習慣が確立されていないため、目標実現に必要な家庭学習時間が確保されておらず、学力が不足がちである。
達成目標	週間学習時間の学年目標達成率。1週間の合計学習時間の学年目標は1・2学年は20時間、3年生は30時間である。 1・2年生は60%以上、3年生は80%以上。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生は4・7・9・11・1月に、3年生は4・7・9・11月にそれぞれ学習時間調査を行い、担任、授業担当、部活動顧問等による面談や学年集会、ホームルーム活動等を通して、時間管理能力を養わせ、家庭学習の充実を図る。 ・学習実態調査後に、調査結果を個票で生徒個人に知らせて、家庭学習量と学習計画を見直させ、学習習慣を改善させる。 ・社会的・職業的自立に向けたキャリア教育・職業教育を推進し、生き方や在り方を考えさせる中で、学びの必要性を説き、学習意欲を喚起させる。大学訪問やオープンキャンパスを通して、目標とする大学について考えさせる。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・週間学習時間の学年目標達成率。(1・2年は1月時、3年は11月時の学習時間調査結果より算出) <p style="text-align: center;">1年生 38% 2年生 59% 3年生 67%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度11月より、<u>学習時間調査は結果入力を生徒個人のタブレットによる入力方式に変更した</u>。調査結果の個票配付については、現在、システム開発中である。 ・2年生は、例年通り、全員で富山大学を訪問し、施設見学や学部・学科の模擬講義、本校卒業生による富大生座談会に体験・参加し、学部学科の特色、地元大学の充実と地域への貢献などを体得した。また、後半はコロナ感染状況がやや好転したこともあり、毎年実施していた1学年の進路座談会を3年ぶりに開催できた。概ね良好な状況であった。 ・キャリア教育・職業教育推進のため、生徒の研修機会(看護見学、薬剤師体験、県7カ所ミックインターシップなど)は、必要に応じて教室掲示だけでなくGoogleClassroomで公開し、積極的な参加を呼びかけた。
評 価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>3年生は、週間学習時間が30時間以上の者は7月:53%→11月:67%、平均は30.1h→33.2hだった</u>。受験生として学習意識は高く、7月時で平均値が学年目標に達した。 ・<u>2年生は、週間学習時間が20時間以上の生徒割合は7月:35%→1月:59%に大幅アップし、平均も17.7h→21.2hに伸びた</u>。 ・<u>1年生は、週間学習時間が20時間以上の生徒割合は7月:36%→1月:38%で微増だったが、平均は18.3h→17.7hに減少した</u>。平日、休日の平均学習時間が1h未満である生徒数がやや多い結果だった。 ・目標週間学習時間を達成することが出来た生徒の割合は、各学年とも目標に達していない。しかし、結果として目標達成している生徒数は増加傾向であり、<u>Cとする</u>。
次年度へ向けての課題	必ずしも「学習時間が長い＝学力が高い」ではないが、学習時間の確保は学力向上に不可欠であり、1週間単位で目標学習時間に達するきちんとした生活計画とその実行、さらに習慣化を定着させていきたい。その中で学習の質についても向上させるような工夫を見出していきたい。

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 6 —

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動・学校行事・生徒会活動などを、生徒の自立性・内発性を引き出す機会と捉え、実践力のある生徒の育成や人間力の向上を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた環境（活動場所・活動時間）の中で、生徒は学習と部活動との両立を目指しながら励んでいる。 ・伝統的な本校の学校行事や生徒会主催の行事が、生徒の自主的実践力を高めている。 	
達成目標	「体育大会」や「文化部発表会」、「部活動」において生徒が自主的に参加した割合 70%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習活動の成果を生かしつつ、豊かな人間関係の育成に努めさせ、体育的な活動、文化的な活動を創造し発信させる。 ・学校行事や部活動、生徒会主催の行事を生徒が中心となって企画運営することにより、自主的実践力やリーダー性を養う。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育大会」において自主的、積極的に参加した生徒の割合 (1年生90.5%、2年生89.0%、3年生96.0%) ・「文化部発表会」において自主的、積極的に参加した生徒の割合 (1年生93.4%、2年生90.8%、3年生89.9%) ・「部活動」において自主的、積極的に参加した生徒の割合 (1年生80.7%、2年生76.7%、3年生90.0%) 	
具体的な 取組状況	<p>昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策として、「体育大会」では種目数を減らし、競技時間の短縮をはかった。また、テント数を増やし、団席の間隔を広くするなど配慮し無観客で実施した。「文化部発表会」では新築された第一体育館で全校生徒が一堂に会して、文化部のステージ発表を鑑賞することができた。また校内に展示された作品を見学することで、文化部の日頃の活動を多くの生徒に伝えることができた。「部活動」では昨年に引き続き感染症の影響で、各種大会が制約の中で開催された。しかし、少しずつではあるがコロナ禍以前の活動に、多くの部活動が戻りつつある。新しくなった施設の有効な活用を含めて、生徒が今まで以上に部活動に取り組むことができる環境作りに取り組んだ。</p>	
評 価	A	多くの先生方の協力をいただいたが、本年度は「体育大会」「文化部発表会」で90%以上、部活動で82%の生徒が自主的、積極的に参加できたというアンケート結果となった。
次年度へ 向けての 課題	<p>ようやく学校行事、部活動をコロナ禍以前の状態に徐々に戻す段階になりつつあると考えられる。今後、どの様な状況下でもより多くの生徒が達成感、満足感を得ることができるように、学校全体で協力して取り組んでいきたい。特活部としてより具体的に、様々な提案ができるように準備をしていきたい。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 7 —

重点項目	特別活動
重点課題	図書館利用の向上を図るとともに、読書習慣を身につける。
現 状	生徒は主体的な読書活動に乏しく、図書室での貸出冊数も少ないのが現状である。課題解決、進路探究、小論文など必要とする場面で、図書館内の文献や資料を探したり、活用する仕方や習慣があまり身につけていない。
達成目標	生徒1人あたりの年間読書冊数 平均5.0冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員による本の紹介、図書館だよりの発行、読書感想文の募集、読書会、その他図書委員会活動を通して、校内の読書活動を推進する。 ・図書館オリエンテーションを通じて、主体的に図書館を利用するように指導する。また、2学年においては、図書館での小論文の資料の探し方を実践する。 ・自然科学コースの課題研究、各教科の課題、生徒の進路に役立つ書籍や資料について図書選定委員会・学年・コース・教科と連携して、それらの配置の充実に努める。 ・クラス読書会では、いろいろな分野の本を取り上げて生徒の興味と関心を引き出し、読書の深化と領域拡大を図る。
達 成 度	生徒1人あたりの年間読書数 平均4.4冊 対象：1、2年 1年5.3冊 2年3.5冊 昨年度 平均4.3冊 1年4.8冊 2年3.2冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ例年通りの読書推進活動を行うことができた。文化活動発表会では、各クラスの図書委員がいろいろな本についてのクイズを作り、展示することで、生徒の興味と関心を引き出し、読書の深化と領域拡大を図った。 ・図書委員対象の読書会、1・2年生対象のクラス読書会も、事前指導も含め、計画通りに実施し、成功した。クラス読書会の本の選定においてなるべくいろいろなジャンルの本を選び、生徒たちの興味を引くことができた。 ・1学年を対象に4月に図書館オリエンテーションを開き、図書館に気軽に触れ合うことができるように図った。2学年対象の図書館オリエンテーションは3月に実施する予定である。 ・各教科、自然科学コース、進路研究（小論文対策を含む）に関する書籍、生徒からの要望、生徒の興味・関心の高い本を随時購入して、図書環境の整備に努めている。
評 価	C 全体平均は目標の5冊には到達しなかったが、1年生は目標到達し、2年生も昨年の読書数を超えている。10冊以上読んだ者は両学年合わせて43人であった。（100冊1人、80冊2人）
次年度へ向けての課題	本年度、蔵書は増加したが、次年度は生徒たちが今読みたい本をそろえることができれば、図書館利用も増加する。また、図書館を小論文学習に利用する生徒も多いので、小論文対策の書籍も充実させたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 富山東高等学校アクションプラン — 8 —

重点項目	その他（PTA活動）	
重点課題	保護者との連携を図る。 同窓生との交流の推進を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大によって学校での例年のようなPTA活動が出来ない状況である。そのため、保護者のPTA活動に対する関心が薄れてきているのではないかと危惧する。 ・「進路に関する保護者同士の懇談会」は、PTA行事として定着してきたが、講師数はある程度確保できた。本年も同様に進めたい。 ・同窓会総会への参加者が年々減少しており、活動が低迷ぎみである。同窓会会報の代わりにSNSの活用について検討されている。 	
達成目標	「PTA研修会」での参加者の満足度 85%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会総会等の代わりとなる新しい形の情報宣伝活動を考えなくてはならない。 ・PTA各会合や研修について、案内文で主旨や実施内容をわかりやすく説明し、研修会の講師や内容についても参加したいと感じる魅力あるものにする。 ・実施後は参加保護者に対してアンケートを実施し、今後の取り組みに活かしていく。 	
達 成 度	保護者参加者146名。アンケートの結果、「大変満足」51名、「ほぼ満足」83名、「やや不満」9名、「不満」3名であった。	
具体的な 取組状況	<p>新型コロナ感染防止を図りながら、本年度は全てのPTA行事を計画通りに実施した。いずれの行事も参加者は減少していたが、無事終了した。</p> <p>「PTA総会」は、保護者の参加が162名であったが、活発な質問、意見交換が行われた。</p> <p>「進路に関する保護者同士の懇談会（8月）」では、講師として協力していただいた卒業生の保護者は14名で、過去最多であった。そして3学年保護者の参加者は58名で、6クラスに分散し、和気あいあいと意見交換を行った。</p> <p>「PTA全体研修会」は、本校カウンセラーの「中塩真巳先生」の「思春期の親の役割」という題目で、約1時間講演を行った。146名の保護者（1年64名、2年69名、3年13名）の参加があった。昨年度は中止せざるをえなかったもので、本年度実現できてよかったと思う。</p> <p>PTA会誌「東籬」は予定通り2回（7月、12月）発行した。いずれの号にも、2人の保護者のエッセイを載せ、親の気持ち伝えることができた。</p>	
評 価	A	「大変満足」、「ほぼ満足」を合わせると、92%であった。感想では、「大変有意義だった。」「子どもとの接し方の参考にしたい。」などが多かった。
次年度へ 向けての 課題	PTA活動への参加機会は例年通りに実施できたが、参加人数はまだ少ない。次年度は、より多くの保護者が参加できるように計画準備できればよい。また、オンラインでの実施についても考えていく。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）